

ソフトボール男子の世界選手権が3月1日、ニュージーランドで開催する。日本代表（選手17人、スタッフ4人）には岡山勢4人も名を連ね、準優勝した2000年以来3大会ぶりのメダル獲得を目標に世界の強豪に挑む。（村上達也）

メダル獲得に気合

かつて4連覇した開催国のニュージーランド、昨年のU-19（19歳以下）世界ジュニア選手権を制したアルゼンチンなど16カ国が出場。2組に分かれてそれぞれ1回戦総当たりの予選リーグを行い、各組上位4チームが敗者復活戦を含む変則トーナメント（ダブルペーシシステム）で世界一の座を争う。

日本代表は環太平洋大監督の西村信紀ヘッドコーチが率い、チームの中心選手は松田光、谷口淳、木谷謙吾の平林金属ク（岡山市）勢が占める。

中でも平林金属クの昨季国内3冠の立役者となった投手の松田が投打の

世界男子ソフト あすNZで開幕

軸だ。昨年10月のアジア選手権は日本を5連覇に導き、最優秀選手に輝いた。西日本リーグでは最多勝と本塁打王を獲得。日本を代表する選手に成長した26歳は「大事な場面で打ってチームに貢献



西村信紀ヘッドコーチ

したい。投球は緩急を生かしパワーのある外国勢を抑え込む」と使命感に燃える。

二塁手の谷口は代表最年長の34歳。打っては5番を担い、勝負強いバットでチームをけん引す



ヘッドコーチに 平林金属ク3選手軸 環太平洋大・西村監督

る。打力ではアジアで群を抜く日本だが、最速130km/hを超す剛腕がそろった世界選手権は苦戦も予想される。「国内では経験のない剛速球に対応できるかが鍵。独特な海外大会の雰囲気にもまれないよう、冷静さを保ちたい」と経験豊富なベテランは精神的支柱としても若手をリードする。

23歳で右翼手の木谷は昨季、ルーキーながら西日本リーグのベストナインを受賞。巧みな打撃技術や強肩を生かす守備は代表でも一級品だ。打順は2番か8番での起用が予想され「与えられた役割をきっちりこなし、強豪国を倒す」。ハイレベルな大会を心待ちにする。

昨年まで2大会連続5位の日本。エースとして2度の表彰台を経験した西村ヘッドコーチは「世界で勝つには投手陣が3点以内に抑えることが絶対条件。平林金属クの3人を軸に戦い、メダルを持ち帰りたい」と気持ちを引き締める。

日本代表の主力として活躍が期待される平林金属クの（左から）松田光、谷口淳、木谷謙吾

日本の予選リーグ 対戦相手

3月1日	オランダ
2日	アルゼンチン
3日	ニュージーランド
4日	コロンビア
5日	カナダ
6日	フィリピン
7日	メキシコ

平成25年2月28日 山陽新聞朝刊で記事が紹介されました

（平成25年2月28日 山陽新聞社より転載許可承諾済）